

中堅・中小企業等向け「デジタルガバナンス・コード」実践の手引きが公表されました

経済産業省では、企業のDX推進に向けて経営者に求められる対応を取りまとめた「デジタルガバナンス・コード」を2020年11月に公表するとともに、東京証券取引所に上場している企業の中から優れたデジタル活用の実績が表れている企業を選定するDX銘柄等の施策を通じて、好事例の創出や取組の紹介をしてきました。

しかし、DX銘柄の選定対象となっている上場企業には大企業が多く、中堅・中小企業等にはこれらの好事例を参考にしにくい場合もあると考えられます。このため、中堅・中小企業等がDXの推進に取り組む際に求められること等について、事例を交えて解説する「中堅・中小企業等向け『デジタルガバナンス・コード』実践の手引き」が作成・公表されました。

本誌では、同手引きの要約版より、DXの進め方や中堅・中小企業におけるDX実践の事例等を抜粋して紹介します。

【出典】 中堅・中小企業等向け「デジタルガバナンス・コード」実践の手引き(要約版)

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dx-chushoguidebook/tebiki-yoyaku.pdf

【参考】 中堅・中小企業等向け「デジタルガバナンス・コード」実践の手引き

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dx-chushoguidebook/contents.html

そもそもDX(デジタルトランスフォーメーション)とは何か

- デジタル技術やツールを導入すること自体ではなく、**データやデジタル技術を使って、顧客目線で新たな価値を創出していくこと。**
- また、そのために**ビジネスモデルや企業文化等の変革に取り組むことが重要**となる。

DX推進において経営者が考えるべきこと：



具体例

マツトプレジジョン
(精密機械部品
加工業)
の場合

何のために
会社があるか
理念・存在意義

地域・顧客・
従業員に選ばれる
会社となる

5～10年後に
どんな会社で
ありたいか

生産性を向上し、
従業員の可処分
所得を上げる

理想と現状の
差分は何か
どう解消するか

基幹システムの
入れ替えのために
IT投資

顧客目線での
価値創出のため
データ・技術を
どう活用するか

サプライチェーン全体の
データ連携の起点
となることを目指す

よくあるDXが進まないパターン：



- どのような価値を創出するかではなく、「AIを使って何かできないか」という発想に
Ex.社長「AIやろう！」部長「なんかやるぞ！」現場「見積もりください！」ベンダ「・・・」（丸投げ）
- 号令はかかるが、DXを実現するための経営としての仕組みの構築が伴っていない
Ex.社長「明日からDXだ」部長「うちの部門は関係ない」現場「あー忙しい」（誰も変革に着手しない）